

年	出来事, 市場投入製品	製品概要			備考
		最大通紙サイズ (+はノビサイズ)	A4換算コピー速度 または印字速度	価格	
1938	C.F.Carlson : Electrophotography発明				電子写真・間接乾式技術基本発明。翌年Xerography特許出願
1951	RCA社 : Electrofax (EF方式) 発明				電子写真・直接乾式基本技術(酸化亜鉛感光紙を用いるElectrofax=EF)。1951年USP出願→放棄。1953年出願→1962年USP登録
1951	丸屋機化工業 : 桌上型連式シアソ複写機「M型」発売				世界初の桌上型連式シアソ複写機 (* 現キヤノンファインテックニスカ株式会社)
1953	理研光学工業 : シアソ複写機用 日本初紫紺色(ブルー)系感光紙、現像剤 「ND感光紙」, 「ND現像剤」発売				日本初紫紺色(ブルー)系感光紙、連式現像剤 アンモニアガス・水洗が不用となる (*現リコー)
1955	理研光学工業 : 事務用桌上小型シアソ複写機「リコピイ101」発売	B4紙	5cpm	¥138千	日本初の露光・現像・体型 複写機
1956	三田工業 : 桌上シアソ複写機「コピスター-A44」発売	A3紙	35〜250m/hour		A3複写対応、500W交流・二重管式石英水銀灯、シアソ複写機がオフィスで広く用いられる (* 現京セラドキュメントソリューションズ)
1957	富士ゼロックス : XEROX1385(手操作複写機 : スタンダード・ゼロックス)国内発売	B4紙	0.33〜0.2cpm		オフセット印刷マスタースタッフソコビ・解読原図作成、アニメーションフィルム、プリント板、OHPフィルム作成、50%〜150%の縮小拡大可
1958	電子写真学会 発足				電子写真および電子写真に代わる新画像技術開発、人材育成を主点。1998年日本画像学会に名称変更
1959	Xerox : Xerography技術を使った世界初普通紙複写機「914」発売 理研光学工業 : EF方式マイクロフィルムリーダープリンタ「リコファクスM4」発売	9"x14"紙	7cpm		Xerography技術を使った世界初普通紙複写機発売、φ238 Se系感光体ドラム、オープンカスケード現像、オープン定着 日本初期のEF方式を利用したマイクロフィルムリーダー
1960	理研光学工業 : EF方式マイクロフィルムリーダープリンタ「リコファクスP4」発売				乾式現像に、世界で初めて磁気ブラシローラを採用
1962	桂川電機 : 普通紙複写機向け「KIP電子写真方法」開発、発表	B4紙	7cpm		Xerox特許を回避した電子写真方式、後に発表されたキヤノンNPプロセスと同一原理
1963	富士ゼロックス : 国内で普通紙複写機「914」発売		7cpm	レンタル月額¥35千	国内向けに仕様変更設計し生産、国内生産普通紙複写機登場 (* 現富士フィルムビジネスイノベーション)
1964	Xerox : 40cpmの高速普通紙複写機「2400」発売	A4紙→B4紙	40cpm		国内向けに仕様変更設計し生産、国内生産普通紙複写機登場、φ238 Se系感光体ドラム熱ロール定着以降Xerographyの高速化が進む
1965	リコー : EF方式桌上複写機「BS-1」発売 キヤノン : 同社初の電子写真、EF方式キヤノファックス1000発売	B4紙	2cpm相当	¥298千	ブック物も複写でき、低価格化、シアソ複写機に代わり事務機としての位置づけを固める、液体現像を採用
1967	リコー : EF方式複写機「BS-2」発売	B4紙	6cpm	¥600千	キヤノン初の電子写真方式複写機
1968	3M : Color-in-Color方式による世界初のカラー複写機発表 キヤノン : Xerox特許を回避した普通紙複写技術「NPシステム」開発、発表	B4紙	10cpm		ロール紙により給紙を自動化、US安全規格をクリアし、国産機の海外進出の先駆けとなる。国際プロジェクトでの開発(Savin,A.B. Dick,Nashua) 同社独自方式による世界初のカラー複写機、翌年「カラーインカラーI」発売開始
1970	Xerox : 普通紙複写機「4000」発売 キヤノン : 日本初の普通紙複写機「NP1100」発売 IBM : 同社が複写機市場に参入、普通紙複写機「I型」発売	B4紙	40cpm	880千	Xerox特許を回避した、同社独自の電子写真方式NPプロセス、ブラシ手現像での発表 全面対向電極付カスケード現像、φ238 高感度Se系ドラム、熱ロール定着、ブレードクリーニング、自動トナー濃度制御(ADO)搭載複写機の自動化が進む
1971	コニカ : 普通紙複写機「U-Bix480」発売 富士ゼロックス : 普通紙複写機「3600」発売	B4紙	8cpm		CdS感光体NP方式、乾式現像、ブレードクリーニング採用、日本初の普通紙複写機 IBMが複写機に参入、業界初のOPC感光体搭載
1972	キヤノン : NP方式を採用した普通紙複写機「NP-L7」発売 シャープ : EF方式複写機SF201発売 リコー : 普通紙複写機「PPC900」発売	A3紙 A4紙 B4紙	30cpm 10cpm 15cpm	¥688千 ¥335千 ¥888千	シリンドリカル原稿プラテン、オープン・カスケード現像、φ238 Se系感光体ドラム熱ロール定着、ブレードクリーニング、自動トナー濃度制御(ADO)搭載複写機の自動化が進む Xerox特許を回避した、同社独自の電子写真方式NPプロセス、ブラシ手現像での発表
1973	Xerox : 世界初の普通紙カラー複写機「6500」発売 富士ゼロックス : 同社初の独自開発普通紙複写機「2200」発売 日立 : EF方式カラー複写機発売 キヤノン : 普通紙カラー複写機「NPカラー」発表	リーガル紙	3.2cpm	¥0.3千/枚	Se感光体、乾式磁気ブラシ現像採用 世界初のXerography普通紙カラー複写機、カラーコピーサービス単価¥300/枚
1974	Xerox : 高速普通紙複写機「9200」発売 シャープ : 普通紙複写機「SF710」発売 ミノルタ : 潜像転写方式複写機「EG101」発売	B4紙	5cpm →10cpm		富士ゼロックス社初の国内開発、φ121mmSe系感光体ドラム、オープン定着、パドルカスケード現像、ウェブ式クリーニング、世界最小デスクトップ機 国産初の電子写真方式カラー複写機、酸化亜鉛紙、液体現像
1975	リコー : デスクトップ普通紙複写機「DT1200」発売 IBM : 世界初のコンピュータ端末用連動レーザービームプリンタ (LBP)「3800」発表 Eastman Kodak : 高速複写機市場に参入、「Ektaprint100/150」発売 富士ゼロックス : フルカラー複写機「富士ゼロックス6500」国内販売 キヤノン : LBPの開発に成功、「LBP-3500」製品化	A4紙 B4紙 A4紙	10cpm 15cpm 5cpm/単色15cpm	¥50000<	NP方式、CdSドラム、改良を重ね1978年に乾式機を完成、国産初のカラー機となる Seノルト感光体、フラッシュ露光、4段磁気ブラシ現像、120cpm最高速機、大量コピー機の前駆けとなる
1976	IBM : 高速普通紙複写機「II型」発売 三田工業 : EF方式複写機「コピスター900-D」発売 シャープ : 普通紙複写機「SF710L」発売	leagal A3紙 B4紙	75cpm 12cpm	\$25,000 ¥498千	同社初の普通紙複写機、IC制御回路採用 液体記録紙、潜像転写(TESS)方式、液体現像採用 (* 現コニカミノルタ)
1977	リコー : 静電潜像転写方式フルカラー複写機「CR1000」発売 日本電気 : 電子写真方式コンピュータ端末用ページプリンタ「N7380」発売 日立 : 同社初、電子写真方式カット紙プリンタ「H-8191/8195」発売液体現像採用		21000 l/min		静電現像を用いたデスクトップ普通紙複写機、輸出、OEMにて世界に広がる商品となる 電子写真方式連続転写レーザービームプリンタ、同社は端末プリンタとして電子写真技術に注力 (144x180dpi) 書込み 同社初の電子写真複写機、生産とともに、高画質を狙う、導電性キャリア磁気ブラシ現像
1978	キヤノン : 普通紙国産最高速複写機「NP8500」発売 コニカ : 普通紙複写機「U-BixV」発売 日立 : コンピュータ端末用高速漢字プリンタ「H-8192/8196-20」発売 富士ゼロックス : 普通紙複写機「富士ゼロックス3500」発売 富士ゼロックス : 大型図面用複写機「富士ゼロックス2080」発売	B4紙 B4紙 A3紙	12ppm 77cpm 15cpm	¥5,000千 ¥760千	Xerox開発、国内業界で初めてのフルカラー電子写真複写機、コピーサービス単価¥300/枚 NP方式レーザービームプリンター、He-Neガスレーザー使用、メインフレーム出力機を狙う
1979	キヤノン : デスクトップ普通紙複写機「NP2000」発売 キヤノン : 桌上型レーザープリンタ「LBP-10」発売 ミノルタ : デスクトップ普通紙複写機「EP310」発売	A4紙 A4紙 B4紙	20cpm 10ppm 12cpm	¥598千 ¥1,950千 540千	高感度・機能分選復層構成OPCドラム、スキヤン光学系での最高速 (70cpm) , 1986年まで改良機種を開発する 導電性磁性トナー1成分現像、酸化亜鉛ロール感光紙、圧力定着採用 (* 現京セラドキュメントソリューションズ)
1980	富士ゼロックス : 普通紙複写機「富士ゼロックス4800」発売 富士通 : 同社初、コンピュータ端末用日本語ラインプリンタ「FACOM6715D」発売	A3紙	40cpm	1,880千	世界初制御用LSI搭載 OPC、感光性付与静電記録紙へ潜像転写、液体現像採用 国産初の電子写真方式ページプリンタ (144x180dpi)
1981	リコー : 普通紙高速複写機「FT7500」発売、(60cpm) キヤノン : 普通紙高速複写機「NP8500Super」発売 富士通 : コンピュータ端末用日本語ラインプリンタ「FACOM6700D発売」	B4紙 B4紙	60cpm 135cpm	¥4,550千 ¥9,850千	液体現像採用 (289dpi) スクリーン感光体による、NPリテンション方式採用、乾式2成分磁気ブラシ現像、最高速を狙う 同社初Se感光紙、現像剤付検知フォトセンサー採用、市場でのサービス・メンテナンス性を配慮した (* 現コニカミノルタ)
1982	リコー : デスクトップ普通紙複写機「FT4060」発売 リコー : 世界初の商用デジタル普通紙複写機「RICORE3000」発売 キヤノン : パーソナル普通紙複写機「PC101/20」発売 コニカ : 普通紙高速複写機「U-Bix4500」発売	A3紙 A3紙 A4紙 A3紙	21cpm 30cpm <PC20> 8cpm 45cpm	¥798千 ¥9,900千 <PC20> ¥298千	翌年には当時最高速となる高速漢字プリンタ「H-8192/8196-30」出荷開始、240dpi 高耐久As2Se3系感光体採用100V15Aで40cpm、安定性が優れ国産の中・高速PPCのスタンダードとなる A1サイズまでコピーできる大型図面用普通紙複写機 磁性非接触1成分現像(ジャンピング現像)搭載、同社のモノクロ現像方式のベースとなる
1983	ミノルタ : 世界初ズーム搭載普通紙複写機「EP450Z」 キヤノン : 普通紙カラー複写機「NPカラーT」発売 リコー : 普通紙複写機「FT6080」発売	A3紙 A3紙 B4紙	25cpm 46cpm	¥848千 ¥8,950千 ¥2,280千	世界初の半導体レーザー搭載、反転液体現像、世界最小・最低価格、オフィスLBPの先駆け 小径径キャリア2成分「マイクロトニング現像」採用、高画質が評判となる (* 現コニカミノルタ)
1984	リコー : パーソナル普通紙複写機「M10/M5」発売 キヤノン : デジタル普通紙複写機「NP9030」発売 キヤノン : 小型レーザープリンタ「LBP-8A/CX」発売	A3紙 A3紙 A4紙	2000/min 30cpm 30cpm	¥2,280千 ¥1,980千	「3500」機の高速発展型、自動両面機能搭載 富士通初電子写真方式ラインプリンタ、第七回情報処理技術進歩に認定 新聞発高感度長寿命OPC搭載、国内のOPC開発が盛んになる NP リテンション方式、当時のXEROX超高速機を超え世界最高速となる 高速日本語ラインプリンタ
1985	富士ゼロックス : フルカラー複写機「富士ゼロックス6800」発売 東芝 : 普通紙複写機「レオドライ4121」発売 リコー : 同社初のフルカラー普通紙複写機「RC5000極楽鳥」発売 シャープ : 同社初の高速複写機「SF9500」発売	A3紙 A3紙 A3紙	5cpm(カラー) 14cpm カラ-5.5/単色8.3cpm	¥5,800千 ¥6,800千	高感度、高耐久As2Se3系感光体採用、2成分現像小型高速PPCのスタンダードとなり、同一エンジンでの機能展開が進む 世界初デジタル複写機、CCDイメージスキャナ、He-Neレーザー、高耐久Se系感光体、2成分反転現像採用 (300dpi) 世界初のユーザー交換カートリッジ(感光体、帯電、現像、クリーニング一体)方式採用 高感度、高耐久As2Se3系感光体採用、コニカ高速への先駆け 世界初ズーム搭載複写機、複写機が同社の主力事業になってくる、等価専用機 EP 450も¥648千で同時発売
1986	キヤノン : 同社パーソナル普通紙複写機第二弾「FC3/FC5」発売 コニカ : 高速普通紙複写機「U-Bix 5500」発売	A4紙 A2紙	<FC3> 6cpm 55cpm	<FC3> ¥99千 ¥2,525千	NP方式、乾式現像、OHPフィルム使用可 高感度、高耐久As2Se3系感光体採用高速PPCの足がかりとなる 世界初7.5μm小径トナー採用、1成分FEED現像搭載 a-Si(非晶質シリコン)感光体採用、デジタル画像処理により高画質化が進む ユーザー交換・体型カートリッジ方式採用、世界最小・最軽量、価格を40万円台に抑え、パソコン用電子写真プリンタの先駆け a-Si感光体、1成分ジャンピング現像、高速高耐久化が進む パーソナルコース、世界最小B4機、ユーザー交換現像ユニット フルカラー複写機第二弾

太字は本文中で説明のある事項、製品

太字は業界に大きな影響を与えた事項